

比較事例分析の手法

担当：福元 健太郎
第 2 学期水曜日 1 限
東 2 号館 102 号室

■授業の目的

タームペーパーは事例分析を行うことになっている。その際、複数の事例を比較と効果的である。しかしただ漫然と事例を並べるだけでは、意味のある比較はできない。比較には相応の手法が必要である。この演習では、一般的な形で方法について論じた書物を講読する。

■授業方法

各回、全員が、次のような事前メモ（A4）のコピーを提出した上で、発言する（原本は手許に置いて自分で用いる）。それを基に、教材の内容を確認しつつ、議論する。①疑問点を全て挙げる。「何がわからないか」は事前に自分でわかるようにして、授業でそれを解消することを心がけること。②自分が過去に書いたもしくはこれから書くタームペーパー・特定課題研究・修士論文・博士論文について、教材で挙げられている助言・忠告・注意点に照らして、何が問題か、どうしたら改善できるか、うまく行っているのはどのような点かを書くこと。

■成績評価の方法・基準

成績は、出欠状況（1回欠席で5点引く）、メモに基づく発言（5割）及び議論における発言の内容（5割）、によって評価する。出席は事前メモの提出および授業中の議論によって確認する。単位取得要件は、欠席日数が3分の1未満であること（学則第45条）と、点数が50点以上であることである。試験は実施しない。なお欠席日数が3分の1となった場合は、特に申し出がない限り、不可ではなく棄権にする。

■授業計画

教材は全てこちらから配付する。但し*がついた4冊は大村副手から借り出すこと。

9月24日

授業の説明

10月1日

高松淳也「社会資本整備の政治過程における決定のルールとアリーナ——整備新幹線と空港整備をケースとして——」『レヴァイアサン』35号（2004年）59-85頁

10月8日*

加藤淳子「比較政治学方法論と日本政治研究」日本比較政治学会編『日本比較政治学会年報 第7号 日本政治を比較する』（早稲田大学出版部、2005年）26-43頁

T.J.ペンペル「比較の視座から見る日本政治——日本のどこが本当にユニークなのか」同、44-63頁

10月15日*

草野厚『政策過程分析入門』（東京大学出版会、1997年）第2、3、5章（96頁まで）

10月22日*

G.キング・R.O.コヘイン・S.ヴァーバ『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』（勁草書房、2004年）第1、2章

10月29日

『社会科学のリサーチ・デザイン』第3、4章

11月12日

『社会科学のリサーチ・デザイン』第5、6章

11月19日*

岩崎美紀子『比較政治学』（岩波書店、2005年）第5、6章

11月26日

コリン・エルマン、ミリアム・フェンディアス・エルマン（渡辺昭夫監訳、宮下明聡、野口和彦、戸谷美苗、田中康友訳）『国際関係研究へのアプローチ 歴史学と政治学の対話』（東京大学出版会、2003年）第4章

12月3日

シーダ・スコッチボル（牟田和恵監訳）『現代社会革命論：比較歴史社会学の理論と方法』（岩波書店、2001年）第1章

12月10日

シーダ・スコッチボル編著（小田中直樹訳）『歴史社会学の構想と戦略』（木鐸社、1995年）第11章

12月17日

清水和巳・河野勝『入門政治経済学方法論』（東洋経済新報社、2008年）第3、5章

■その他

・オフィス・アワー

質問など面談を希望する学生は、電子メールを Kentaro.Fukumoto@gakushuin.ac.jp 宛に送って予約をとった上で、東2号館913号室にある私の研究室へ直接来て良い。

・欠席した場合

配布物は次回授業まで共同研究室でとっておくので、欠席した場合は、それまでに木村副手へ受け取りに来ること。その後は処分する。